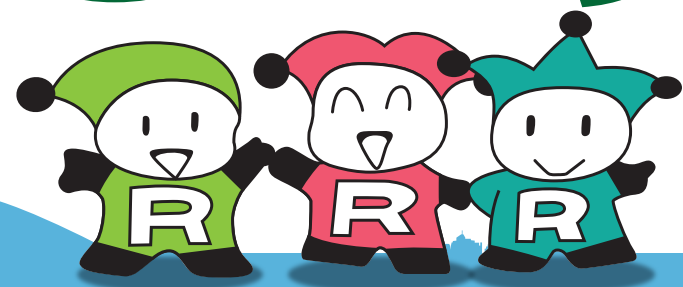


スリーアール

3Rのススめ。



2020
第29号
冬

国際会議場と比叡山

いる? プラスチック問題を みんなで考えた!

いない?

環境フェスティバルでプラスチック意識調査を実施



昨年12月7、8日、伏見区の京都パルスプラザ(京都府総合見本市会館)で「京都環境フェスティバル2019」が開催されました。「環境とくらしについてみんなで考えよう」という催しで、当日は師走の寒さにも関わらず、子供から若者、おじさんおばさんがたくさん集まり、会場の中は熱気に溢れていました。自然や環境を学ぶ様々なワークショップやいろんな団体の活動が展示され、子供たちは段ボールの迷路で遊んだり、ステージに登場したウルトラマン コスモスに歓声を挙げました。おばさんおじさんは地産地消のエコグルメに舌鼓を打ち、みんな楽しく遊びながら自然と環境を守る大切さを学んだのでした。そんな中、「京都府産業廃棄物3R支援センター」も小さなブースをいただき、皆さんに一つのアンケートお願いしたのでした。

「いる?」「いない?」あなたはどちら? プラスチック問題を考えよう!

今世界中で問題になっているプラスチック。今や私たちの暮らし全てを形作っているといってもいいプラスチックですが、その原料の石油はいつか枯渇してしまう資源ですし、大量に廃棄され海洋汚染など地球規模の問題を引き起こしています。プラスチックを減らすにはどうしたらいいだろう?とても大きな問題で、もちろん一筋縄ではいきません。そこで私たちは、皆さんがプラスチックについてどう考えているか、アンケートを実施することとしました。色々なプラスチック製品について、あなたはそれを「いると思うか」、「なくてもいいと思うか」を聞いたのです。簡単な意識調査ですが、実はこれ、なかなか奥が深い調査なんです。

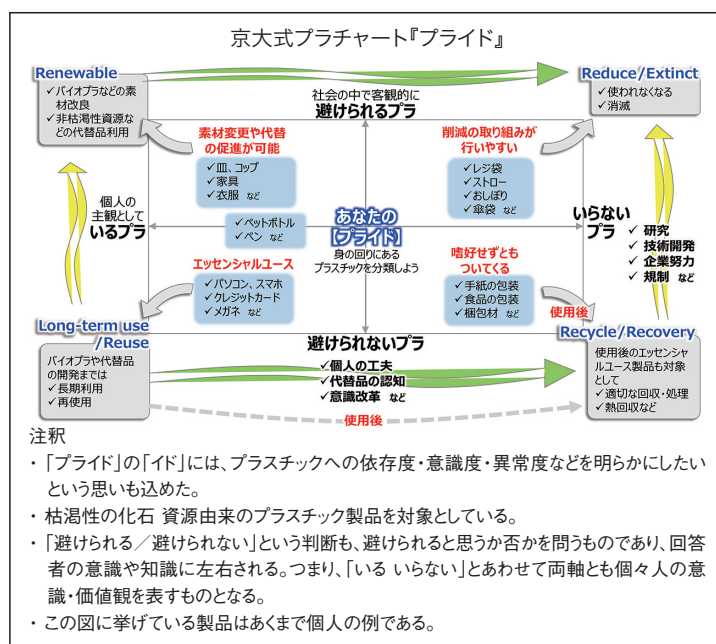
京大式プラチャート「プライド」で考えるプラスチック問題

調査に利用したのが前回のニュースレターで紹介した「京大式プラチャート『プライド』」。身の回りにあるプラスチックを「個人の主

観として要るか、要らないか」「客観的に避けやすいか、避けるにくい」を横軸と縦軸で分類し、今後の取組の方向を考えていこうとするツールなんです。

例えば、「個人の主観として要るけど、他の素材に変えられる」プラ製品(皿、コップ等)であれば、バイオプラなど素材の改良という方向に向かうべきでしょうし、「個人の主観として要らないけど、避けられずについてくる」プラ製品(食品の包装等)はリサイクルを徹底する、などが考えられます。

京都大学の了解と協力を得て、このチャートをもとにフェスティバル参加者の皆さんの意識調査を行いました。



次ページへ続く

contents

特集

「いる?」「いない?」
プラスチック問題をみんなで作った!
環境フェスティバルでプラスチック意識調査を実施

シリーズ

◆京都のリサイクルを担う人々
業務のすべてにSDGsの視点を導入
●(株)大剛 長岡京工場

製品によって大きく異なる 「いる」「いない」

京都大学が調査のために選定した70品目のプラ製品のうち、20品目を選び、「いる」「いない」「使用したことがないので判断できない」の3区分のパネルを作り、自分の考えをシールで貼ってもらいました。アンケートに参加してもらうため鉛筆(リサイクル鉛筆)の景品も用意していたのですが、参加してくれる人が後を絶たず景品はたちまちなくなり、でも皆さん、景品がなくても積極的に参加してくれました。あるお父さんは子供の手を引きながら参加、幼稚園ぐらいの子供が退屈そうだったので少し話しました。「パパときて楽しいね」「うん」「ママはどこなのかな?」「ママは友達とランチに行ってる」。う〜ん、お父さんご苦労様!このフェスティバル、お母さんの安らぎと家庭の平和にも役に立っているんですね。

お母さんと子供の二人連れ。お母さん、真剣に考えこんでいます。「レジ袋、どやろな〜いらんかな〜」「ぼくは『いる』やな」「水のペットボトルは『いる』やね」「ぼくは『いない』や」。ことごとくお母さんと反対の意見です。反抗期かな?でも一緒に考えてくれてありがとう、仲のいい反抗期でした。

こうして二日間で270名もの皆さんに参加していただきました。それではその結果をご紹介します。

20品目中、こんなプラスチックは「いない!」ベスト3!は、

第1位



シングルユースのスプーン・フォーク(87%)

第2位



プラスチック製ストロー(83%)

(括弧内の数字は「必要でない」とした人の割合)

第3位



レジ袋(75%)

いずれもシングルユースのプラスチック、日頃から目に付くことが多い製品、最近マスコミで取り上げられることが多い製品、プラスチックじゃなくてもいいじゃないか、といった製品がトップ3に上がったようです。この他にも、テイクアウト飲料のプラカップ、果菜類袋包装、クッション材、ペットボトル、卵パックといったシングルユースプラスチックについては、5割以上の人が「いない」とされました。

逆に「いる!」プラスチックについては、

第1位



プラスチック製食品保存容器(78%)

第2位



食品用ラップ(75%)

(括弧内の数字は「必要である」とした人の割合)

第3位



紙オムツ(71%)

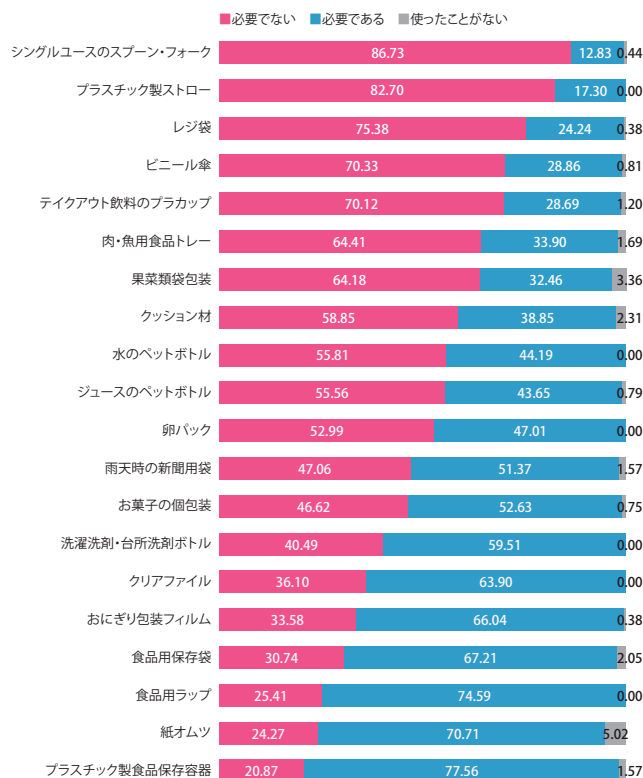
いる? いない? あなたはどっち? プラスチック問題を考えよう!					
「エコーと京大」の協力を得て作成しました。					
	1. レジ袋	2. プラスチック製ストロー	3. シングルユースのスプーン・フォーク	4. 食品用ラップフィルム	5. プラスチック製食品保存容器
ある					
必要でない					
必要					
判断できない					
	6. 食品用保存袋	7. ビニール傘	8. クリアファイル	9. 紙オムツ	10. 水のペットボトル
ある					
必要でない					
必要					
判断できない					
	11. ジュースのペットボトル	12. テイクアウト飲料のプラカップ	13. 肉・魚用食品トレー	14. 卵パック	15. おにぎり包装フィルム
ある					
必要でない					
必要					
判断できない					
	16. 果菜類(ピーマン、ナス等)の袋包装	17. お菓子の個包装	18. 洗濯洗剤・台所洗剤ボトル	19. 雨天時の新聞用袋	20. クッション材
ある					
必要でない					
必要					
判断できない					

(アンケートに使用したパネル)

でした。いずれも日常に使うことが多く、シングルユースではないものの、プラスチックに変わるものがないもの、代え難いものが「いる」プラスチックになったようです。

この結果は、男女、年齢(19歳以下、20-59歳、60歳以上)によって多少の差異はあるものの、大きな違いはありませんでした。皆さんはどう思われますか? 様々なプラスチック製品、皆さんは「いる」「いない」どちらでしょうか。便利で生活に欠くことのできないプラスチックですが、どんなプラスチックをどうやって減らすことができるか、真剣に考えなければいけない時代になったといえるのではないのでしょうか。限りある資源を守るため。地球をプラスチック汚染から守るために。

プラスチック製品に対する意識調査



京都の産業廃棄物 中間処理業者を訪ねて

第15回目

業務のすべてに SDGsの視点を導入

総合的なリサイクルを展開する 安田産業グループ (株)大剛 長岡京工場

排出事業者の多様なニーズに対応できるよう、京都府内に多くのリサイクル工場を展開している「安田産業グループ」。今回は、その主要工場の一つである「(株)大剛 長岡京工場」を訪れ、現在のリサイクル処理の状況から今後の廃棄物処理業界の事業展開の方向をお聞きしました。

様々な廃棄物に対応できる 総合的なリサイクルシステムを構築

対応していただいたのは地球環境室室長代理の安田義崇さんと営業部部長代理の山田直人さん。ここ長岡京工場では、ボイラー燃料となるRPFの製造ラインのほか、様々な製造・処理ラインを有しており、それぞれ説明してもらいました。

●バイオマスボイラー燃料(RPF)製造ライン●

「RPFは、良質なものを安定的に供給することが大事なんです」と安田氏。ボイラー燃料に利用されるRPFは塩ビの含有を嫌うため、厳しく品質管理をすることが必要で、自社でも蛍光X線分析で含有状況をチェックしています。

また品質を確保するため、排出元で廃プラスチックを種類ごとに分別してもらうことがとても重要ですが、現実には限界もあるといえます。その場合は焼却処理も選択肢にあり、熱利用を含む適正処理の観点からも考えることも必要ではないかとのことでした。



製造されたRPF。廃プラスチックの割合は約50%、生産量は約1400t/月に上るという。

RPF: Refuse derived paper and plastics densified fuel の略。主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙や廃プラスチックを主原料とした固形燃料。

●飲料容器選別ライン、脱酸ペレット製造ライン●

飲料容器選別ラインでは、ペットボトル、アルミ缶、スチール缶、ビンといった飲料容器ごとに選別しアルミ缶やスチール缶は自社内で処理されています。

ペットボトルの動向について尋ねると、安田さんは「中国の受入れについても2020年には止まることから、やはり国内でリサイクル処理に向かうべきです。ペレット加工など、今の処理にさらに手を加えることも視野にいられています。」と言います。



アルミ缶はアルミペレット化され精銅工場の脱酸剤として出荷

●廃棄飲料処理ライン●

ここは、賞味期限切れや製造時の不良品などの清涼飲料水が搬入され、容器と中身を分離し処理が行われます。容器は紙やプラスチックなどのリサイクル施設で処理し、中身の液体はメタンガス発電用に処理委託されています。賞味期限切れや不良品の処理は、発生元などの機密の保持が極めて重要で、厳格な管理のもとで処理しているとのことでした。

●古紙トータルリサイクルライン●

古紙トータルリサイクルラインでは、カーボン紙やレシートといった感熱紙などの難処理物も処理が可能で、トイレペーパーなどにリサイクルされています。一般的に古紙は新聞雑誌、段ボールなどの種類ごとに回収業者が異なりますが、同社はすべての古紙を引き受けており、工程名の「トータルリサイクルライン」を実現しています。

動脈産業の一翼を担うリサイクル業へ

「今までの処理業者は、A社の廃棄物を処理・リサイクルしB社に運ぶだけでしたが、今後はA社にもB社にもより良い方法を提案できる能力が必要なんです」と安田さんは強調します。

廃棄物処理を請け負うだけでなく、より良い処理を排出事業者に提案できる能力、そして処理後物も新たな原料・資材として顧客に販売する視点が重要ということなのでしょう。

同社は創業後45年経過しますが、昔は処理業といえば不適正処理や不法投棄といったイメージがあったことは否めないと言います。しかし今は大きく変わり、最近では企業から問い合わせも増え、廃棄物の管理方法を提案するコンサル的な業務も増えてきているといいます。処理業はサービス業であり、動脈産業の一翼を担うまでになってきていると感じています。

「自分の子供に仕事を託す更に45年後には、環境を守り公衆衛生を守る企業として、海外にも進出し日本のノウハウを伝えたいし、企業のあらゆる廃棄物の問題に対応し提案できる企業として発展させていきたいですね」と期待します。

また、最近多発する災害について、関西でも一昨年の台風21号、昨年の台風19号と大量の木くずが発生し、処理が完了するまで3年も要するといわれています。処理を請け負う業者も、処理後物の処分先がなければ受けられず、災害ごみの処理が滞ってしまいます。処理業者と行政が事前に連携しておくことが必須で「あらかじめ行政と業務提携している処理業者は、災害時に直ちに動くことができるんです。当社もいざと

次ページへ続く

いう時に迅速な行動が取れるような体制にしています」とのことでした。

業務のすべてにSDGsの視点を導入

社内で目を引いたのがSDGsのロゴマークです。安田産業のマークでお馴染みの「リサちゃん」とともに、社屋や所用車にSDGsのマークが張られています。

「当社は、業務全体を横断する視点として、SDGsを導入しました」と安田さん。

最近よく耳にするSDGs。2015年国連総会で設定された「持続可能な開発目標」は、今世界中で企業活動を始め様々な活動の行動指針として取り組みが進められています。

安田産業グループも、処理業界としていち早くこの目標に参画することをコミット(約束)しました。17の目標のうち、安田グループはジェンダー、エネルギー、都市・生産・消費、海洋資源の5つの目標にコミットしています。エネルギーについては、RPFや木質バイオマスを手掛ける同社ならではの取り組みですし、業務すべての分野にSDGsの網をかぶせ横断的にチェックすることにより、企業全体の価値を高めていくことが期待されます。



SDGsのロゴの入った社用車

SDGs

「持続可能な開発目標」Sustainable Development Goalsの略。2015年の国連総会で、持続可能な社会を実現するため、先進国と開発途上国が共に取り組むべき世界共通の普遍的な目標として設定された。SDGsには17のゴールと169のターゲットが定められ、17のゴールには持続可能な生産・消費など地球環境そのものや、地球環境と密接に関わる課題が含まれている。SDGsの取組は、企業にとってビジネス基盤の強化、事業リスクの回避等の観点から注目され経営の指針として重視されてきている。

処理業者のノウハウを生かした事業を展開

最後に安田さんは、企業と処理業者の協力体制をつくることの重要性を語りました。「廃棄物は分別してもリサイクルしても、モノそのものはなくなりません。どうリサイクルするか、何にリサイクルできるかが、まさに我々の知恵の出どころなんです」。企業と処理業者と一緒に企画立案していくこと、処理業者は企業のパートナーであることをしっかり理解してほしいと言います。

また高齢化が進めば、ごみを取りに来て欲しいという人も出てくるし、サービス業としての役割はまだたくさんあると感じています。廃棄物はどこで何がいつどのような形で出るか、常に不確実を内在していますが、それに対応できるデータを持っているのは処理業者だという自負があります。そういったノウハウを活用する事業展開を行っていきたい、とお話しお聞きして取材を終えました。



お話を伺った安田義崇さん(左)、山田直人さん(右)と社員の坪田容子さん(中央)。同社のリサちゃん、SDGsマークとともに。

株式会社 大剛 長岡京工場

所在地:〒617-0833 京都府長岡京市神足寺田17番地2
TEL:075-958-6661(代) FAX:075-958-6663

事務局より

今年の7月1日から実施されるレジ袋の有料化に向け、昨年末、国はパブリックコメント(意見公募)の結果を踏まえ作成した「プラスチック製買物袋有料化実施ガイドライン」を公表しました。この有料化、具体的にはいわゆる「容器包装リサイクル法」という法律の省令改正で対応されるのですが、すべてのレジ袋が有料化されると思いきや、店舗、レジ袋の形状や素材毎に取り扱いが異なり、例えば繰り返し使える肉厚のレジ袋などは例外とされ、これまで通り無料で提供される可能性があります。肉厚品はプラスチックの量が多く、使い捨てれば環境への負荷が増加するので、貰った側の意識が問われます。用途に応じた使いやすいマイバッグの開発が求められていますが、何よりもまず使い捨てのライフスタイルを変えることが大切ですね。

一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センター ニュースレター 「3Rのススメ。」第29号



2020年1月発行(年4回発行)

発行:一般社団法人京都府産業廃棄物3R支援センター

住所:〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入谷鉾町78番地
京都経済センター4階 417号室

T E L : 075-352-0530 F A X : 075-352-0529

E - mail : info@kyoto-3rbiz.org

U R L : <http://www.kyoto-3rbiz.org/>

【構成団体】 京都商工会議所・京都府中小企業団体中央会・一般社団法人長田野工業センター・公益社団法人京都工業会
公益社団法人京都府産業資源循環協会・特定非営利活動法人KES環境機構・京都府・京都市

